

川で遊び、川に学び、川と暮らす 「おとがワ！ンダーランド」

愛知県 岡崎市

おとがワ！活用実行委員会／岡崎市

喜びの声



受賞者

おとがワ！活用実行委員会
委員長 井上 徹

コメント

数年前まで、乙川は「桜まつりや花火大会など何か特別な理由がなければ足を運ばない場所」でした。いろいろな使い方を試行錯誤する中で、おとがワ！ンダーランドに関わってくれた人たちの手によって、乙川本来の魅力が次から次へと「発見」され、少しずつですが「何もなくても行きたくない場所」に変わっていきました。これからも乙川を舞台にして生まれるささやかだけれど大切な一人ひとりの物語が生まれる場所をつくってきたいと思います。

活動の内容

- 乙川河川敷活用プロジェクト「おとがワ！ンダーランド」の企画・運営
- 自主企画イベント「川びらき」「川あそび」「川ぐらし」の開催
- 発見された乙川の価値やかわまちづくりの取り組み成果をまとめた冊子「OTONOTO」の発行

活動の経緯

平成 27 年 国土交通省「かわまちづくり支援制度」に登録。河川敷地占用許可準則に基づく都市・地域再生 等利用区域に指定
平成 28 年「おとがワ！ンダーランド」社会実験としてスタート。
平成 29 年 おとがワ！活用実行委員会発足
平成 30 年「OTONOTO」発行。現在に至る。

3 活動の成果や波及効果等

1年目の活動から課題をしっかりと捉え、プログラムや実施期間の延長、定期プログラムの増加、複数の団体・事業の連携などの工夫により、「おとがワ！ンダーランド」への参加者が増え、リピーターも増えています。その波及効果として、河川空間の日常的な活用（ランニング、ピクニック、キャッチボール等）も増えています。

また、かわまちづくりの拠点施設として、岡崎城を望むことのできる殿橋のたもとにデッキで組まれた「殿橋テラス」を活用したカフェを設置し、かわまちづくりの取り組みの広告塔として、また公共空間を活用した収益施設としての役割について社会実験で検証し、高い効果が実証されました。



毎月実施しているリバークリーン



週末に実施されているまちなかキャンププログラム



ウェディングパーティー

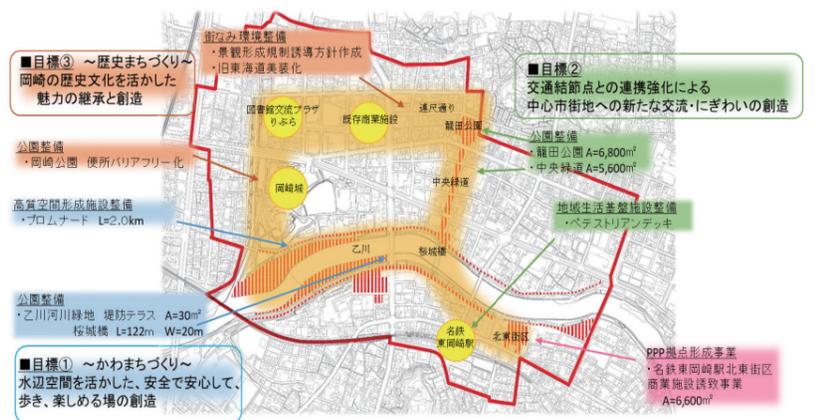


殿橋テラスのオープンカフェ

1 社会資本の概要

乙川は、愛知県岡崎市と新城市の境に位置する巴山（標高719m）に源を発し、山間部を流下し支川男川と合流後、岡崎市の中心市街地を貫流して矢作川に合流する一級河川です。平成27年度より、社会資本整備総合交付金を活用し、中心市街地を東西

に流れる乙川の広大な水辺空間と南北の軸線を整備し、エリアの価値を高める「乙川リバーフロント地区整備基本計画」に基づくソフト・ハード整備が始められました。



乙川リバーフロント地区整備基本計画の概要

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

かつて乙川は、岡崎市民の日常的な憩いの場として親しまれ、活用されていました。しかし、治水対策等による河川整備が進むと共に、徐々に使われない場所となっていきました。「乙川リバーフロント地区整備」の一環で「かわまちづくり支援制度」を援用し、まちなかを流れる乙川の豊かな水辺空間を民間が主体的に活用する「かわまちづくり」に取り組むこととなりました。平成28年度に市民・民間事業

者が主体的に水辺空間を活用する社会実験「おとがワ！ンダーランド」を開催し、課題を解決しながら活動を拡大しています。

また、頭首工の開閉により夏と冬で大きく水位が変化しますが、水位に合わせた観光船、カヌー体験などのプログラムを開催することにより、水辺を1年を通して活用しています。



手軽に水辺のキャンプを楽しめる Let it camp



水辺空間を活用した『川あそび』



桜の時期と夏休みに運航される観光船

所在地
愛知県岡崎市梅園町字3丁目6-6

活動主体及び連絡先
おとがワ！活用実行委員会 (0564-23-2888)

対象となる社会資本
一級河川 乙川
※管理者：愛知県



手づくり郷土賞

受賞記念発表会

講評

大賞部門

一般部門

資料編

手づくり郷土賞

受賞記念発表会

講評

大賞部門

一般部門

資料編